

自習室通い 価値ある休み

今年の夏休みは、教員採用試験の勉強に追われていた。毎日、大学へ行き、夜遅くまで自習室で友人と共に過ごしていた。話すことと言えは、教員のことと試験が終わったあと何がした

大学生 田村勇真 21

いかばかりだった。早く試験が終わってほしい一念で、取り組んでいた。

夏休みも残り少なくなっただ頃、試験の結果が出た。しかし、たくさんあったはずのしたいことを思い出すことができない。やはり自由には遊ぶだけの人生は、面白くないみたいだ。

「休み」は努力した人、頑張った人にしか価値のないものだと思付いた。私は価値のある「休み」を多くつくるために一生努力し続けたい。

試験を終えた今よりも、友人と同じ目標に向かって努力した時間は、私にとって楽しく、素晴らしいものだったと感じている。

(堺市北区)

時を忘れて母と眺めた星空

大学生 上井穂乃花 21

毎年、お盆の時期にお墓参りをするため、香川へ行く。最近、星に興味を持ち始めたお母さんは、出発する前から「今年は香川に行ったら星を見ような」と言っていた。

香川に着き、夕食後に星を見るため、お母さんと外へ出た。ホテルの前が海水浴場になっており、私たちは浜辺に寝転んだ。空を見ると一面に星がキラキラと輝いていた。思わず「きれいやな」と声が出た。話に夢中になっていると、突然お母さんが「あつ、流れ星！」と言った。普段、流れ星など見る機会がないので、話すのをやめて再び星を見た。

周りには私たち以外は誰もおらず、話さなければ波の音しか聞こえない。あまりにも心地良く、時間を忘れて星を眺めた。あの夜に聞いた音、見た景色は一生忘れない。最高の夏の思い出になった。

(大阪市住吉区)